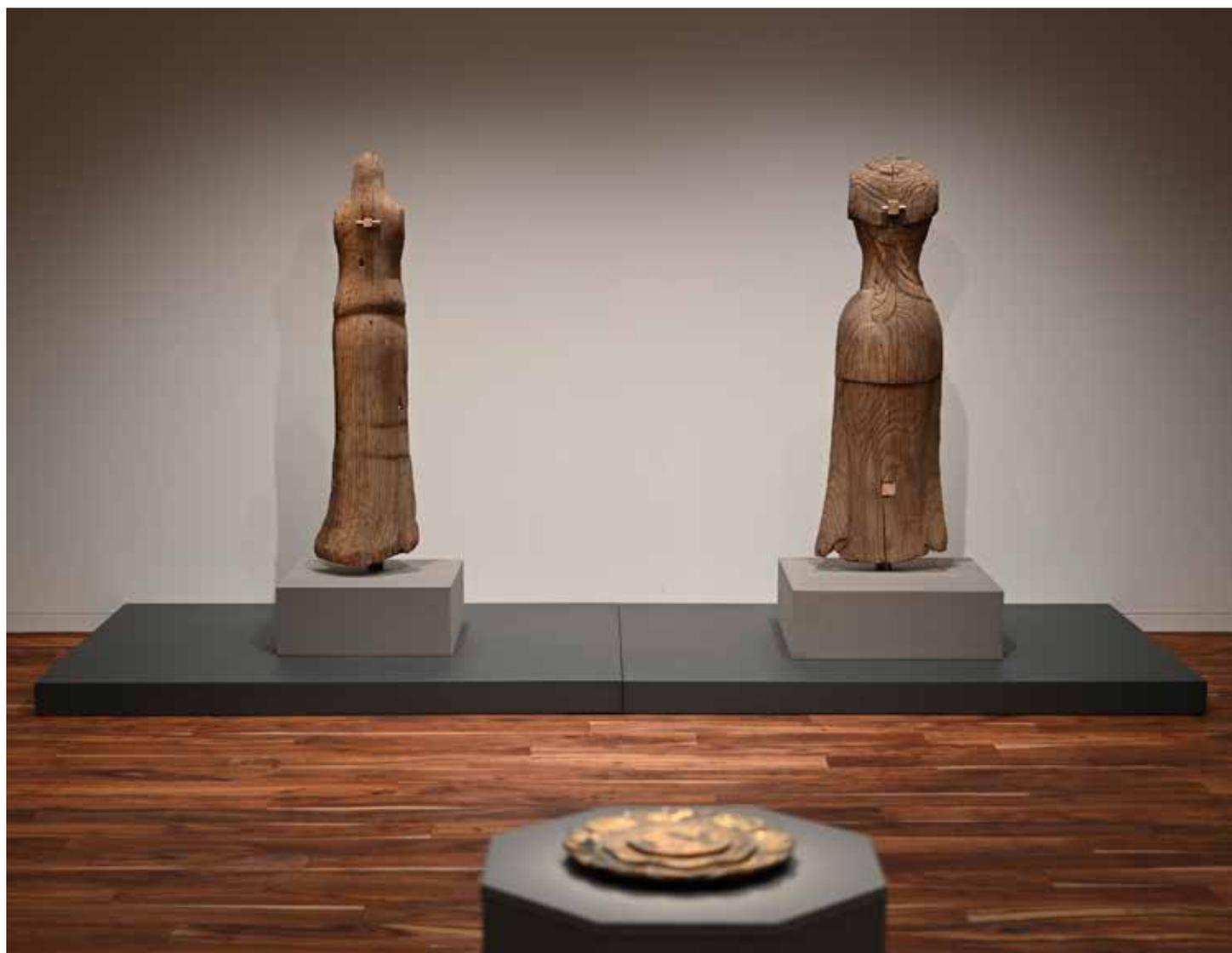


# 上原 美術館 通信

No.  
26

編集・発行 公益財団法人上原美術館  
2024年7月5日発行(季刊4回発行)  
公益財団法人 上原美術館  
〒413-0715 静岡県下田市宇土金341  
Tel. 0558-28-1228  
[www.uehara-museum.or.jp](http://www.uehara-museum.or.jp)



上原美術館は、仏教美術の収集を行うとともに、伊豆の仏像調査を行ってきました。当館が収集した仏教美術の多くは、京都、奈良などの中央で制作された、優れた作品です。本展では、上原コレクションの仏像や古写経を「都の祈り」、伊豆の仏像を「伊豆の祈り」として、あわせて展示しています。

最初の展示室に並ぶのは、河津町谷津地区、南禅寺に伝来した彫像の断片です。南禅寺には奈良から平安時代の仏像や神像26体が伝えられてきました。当館は、平成20(2008)年以来、本群像の調査研究を継続して行うとともに、仏像をお借りして展示することを通じて、南禅寺仏像群の重要さを発信、知名度向上と文化財保護意識の啓蒙に関わってきました。こうした中で、今年の3月15日、文化審議会が文部科学大臣に対し、「南禅寺伝来諸像」を、国指定重要文化財とするよう答申したというニュースがもたらされました。伊豆南部において、仏像の国文化財指定は、大正9(1920)年以来、一世紀ぶりの快挙です。本群像に深く関わってきた当館にとっても、この指定は、意義深い出来事です。

ところで、この度、重要文化財指定の答申を受けたのは、頭部と体部が残り、像としての概形を留める26体。実は南禅寺には、このほかに23点の彫像断片が伝えられています。これらの断片は重文指定から漏れてしまったものの、同じく平安時代のもので、断片は失われた像の一部である可能性が高く、往時の南禅寺を復元し、歴史や性格を考察する上で、極めて貴重な文化財です。そこで本展では、「重要文化財のカケラ」として、

23点の断片のなかから14点を選び展示しています。

正面に展示したのは、仏像の背板(表紙写真)。要するに仏像の背中です。南禅寺の仏像は一本造りですが、一本の材から大きな仏像を造ると、木心と周辺部の密度の違いなどから、後に干割れが生じてしまいます。そこで、一本造りの像には内部を削り抜く内削りを行うのが普通です。立像の場合、内削りは背中から行いますが、その際に空いた穴をふさぐのが背板です。

南禅寺には二枚の背板が伝えられており、一枚は菩薩のもの(表紙写真右)、他方は天部のものです。菩薩の背中は臀部が丸く豊かに膨らみ、腰が引き締まり、スタイル抜群です。一方、天部の背板は菩薩に比べて細身で、衣文も浅く、着衣もあっさりとして上げています。また首まで含んであらわす背板はあまり例がなく、特徴的な姿です。同じ背板といっても、二枚の造形は大きく異なり、魅力的です。

その他、やわらかい肉付きと、優美な曲線を見せる菩薩の腕、力強い坐像の脚部など、断片となってもなお美しい、平安の造形をお楽しみいただけます。これらの断片は従来、一部を除き公開されていません。この機会にご覧ください。

上原美術館をご覧になった後は、是非、河津平安の仏像展示館もあわせてお訪ねください。この春、東京国立博物館に展示され(会期:4月23日～5月12日)、注目を集めた三体の仏像、堂々と周囲を圧する迫力の薬師如来像、両腕を失ってなお、生き生きと躍動する天部像、奈良時代の像と判明した十一面観音像が、伊豆に帰ってきています。(田島)



仏像断片(平安時代) 左は天部の袖、右は仏像の腕(菩薩か)



仏像断片(平安時代)坐像の脚部

河津平安の仏像展示館

〒413-0515 静岡県賀茂郡河津町谷津138番地  
TEL. 0558-34-0115 休館日:火・水・木曜、年末年始

CHECK

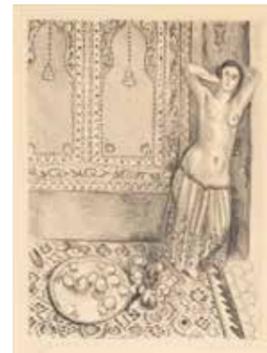


第1展示室『ものゝありか』展示風景

近代館では現在、『ものゝありか—静物画のふしぎ』を開催しております。本展では静物画を中心に、描かれた「もの」の背景に広がる大きな世界観をご紹介します。

第1展示室に入ると、中央の円柱型展示台にセザンヌ《ウルピノ壺のある静物画》が飾られています。この円い展示台はこころと果物が転がるような静物画の不思議な存在感をイメージして作成しました(制作:下田市・つちや創建)。静物画が並ぶ展示室の空間そのものも、お楽しみいただければと思っております。

展示作品の中で1点、新収蔵品をご紹介します。マティス《果物皿の傍に立つオダリスク》は昨年度、収蔵したばかりの初公開となる作品です。平面的な装飾布が広がる部屋の壁にひとりの女性が寄りかかっています。カーペットの上には果物皿が置かれており、そこに幾つかの果物があります。それらは皿に影を落とし、立体的な空間を生み出します。隣には花が置かれていますが、それが現実の花なのか、装飾模様なのか分からなくなります。その傍に立つ女性の人体に目を移すと、今



アンリ・マティス《果物皿の傍に立つオダリスク》1924年 新収蔵・初公開

度は平面の中から立体があらわれ、半透明のスカートがその空間に揺れるかのようです。マティスは若い頃から、自らの絵画に装飾模様を描き、その色彩の効果を高めました。50代の頃になると、そこに再び古典的な明暗表現を取り入れて、平面と立体がせめぎ合う不思議な空間を生み出します。平面的な模様の中で光を浴びる「もの」



第2展示室「生命のかがやき」に展示中の土屋典康《黒磁窯変輪花鉢》(手前)と小林古径《草花》



第3展示室の展示風景。右がシニャック《アニエール、洗濯船》

の存在は、空間のあり方を根本から問い直します。

本展では21点の上原コレクションから画家たちが描く「もの」へのまなざしに注目することで、静物画のふしぎに迫ります。

第2、第3展示室では壁ごとにテーマを添えて、展示を行っています。第2展示室の「生命のかがやき」では、小林古径《草花》を中心にうつわと古写経を展示しています。徹底した観察にもとづく、厳しい線描と澄んだ色彩を特徴とする古径の絵画は、花の奥に潜む生命の輝きをも描き出します。茎の線描や背景のぼかしに用いられた金泥は、その生命の力を一際引き立たせませす。その隣には《黒磁窯変輪花鉢》が並びます。伊豆に窯をもつ陶芸家・土屋典康のうつわは、自然の力が宿るような大らかな気配が漂います。膨らむ花卉のようなかたちと、窯の火で変化する黒磁の輝きは、古径の黒いチューリップと繋がり、花が開く生命力が響き合います。

第3展示室では、昨年よりシカゴ美術館とオランダ・ゴッホ美術館で開催された特別展『ゴッホとアヴァンギャルド—セーヌの流れに沿って』(2023年5月14日～9月4日、シカゴ/2023年10月13日～2024年1月14日、アムステルダム)への出品のため世界を旅し、帰国したばかりのシニャック《アニエール、洗濯船》を展示しています。1887年、シニャックとゴッホはパリの画材店で出会い、わずかな期間、アニエール周辺でともに屋外制作をします。本展では二人の友情に想いを馳せて、シニャックの隣にゴッホの作品を並べています。(二人の交友関係については前号コラムをご参照ください)

ジャンルを越えた上原コレクションをどうぞお楽しみください。

(土森)



不動明王像(室町後期～近世前期) 下田市吉佐美地区

像高59.7cmの不動明王像。ヒノキと思われ針葉樹の一材からつくられる木造りの立像で、両腕は別に造って寄せています。現状では肩先から手首先までを一材で造った左腕を肩の位置で取り付け、右腕は、上膊(上腕)と肘から先の前膊(前腕)をそれぞれ別に造って寄せています。左腕を上げ、何かを握るようですが、不動明王は、右手を上げて宝剣をとり、左手は下げて、悪を縛る縄を握るのが基本ですので、現在の姿は、修理によって、不自然な形になっているようです。

まだ固い椿のつぼみ、あるいはニット帽をすっぽりかぶるような頭髪の表現、体に比して頭部が過大なプロポーション、素朴な面貌などは時代が降る特徴ですが、太い体軀や大づかみに概形をとらえる着衣の表現などは古様で、室町時代後期から近世前期(16世紀後半～17世紀半ば)の像と考えられます。

私が本像に出会ったのは、平成17(2005)年2月6日、郷土史愛好家、故

進士正男さんの紹介で、下田市吉佐美地区の集会所を訪ねた時のことでした。集会所の一室が仏間になっており、格子戸の奥に設けられた祭壇の上に、本像と平安時代の毘沙門天像が並んで安置されていました。信仰対象なので見るだけという約束だったのですが、地区の皆さんとお話ししているうちに、ご厚意で、お像を下ろささせていただき、詳細に観察することができました。とはいえ、この日は準備不足で、詳細な調査や撮影はできず、後日を期して帰りました。その後、進士さんの訃報に接し、管理されている皆さんとの連絡のすべがないまま、時が流れてしまったのです。

令和5(2023)年5月1日、進士さんの娘さんからの一報で、18年ぶりに不動明王像と対面、念願の調査が実現、お像について興味深い話をうかがうことができました。

このお像、新型コロナウイルスの感染拡大で集会所が自粛されるまでは、毎月一度、決まった日に地区の女性が集まっておまつりしてきたのだそうです。ところで、この像が安置されているかたわらの長押しには、長い棒が置かれていました。聞けば、これは不動明王の剣とのこと。集落に不幸や災害があった時、若

い男性がこれを担いで町中を巡回し、最後に川や海で剣を水中に投げ、厄を落としていたのだそうです。下ろさせていただいて観察すると、剣の長さ270.0cm。下の一部が長方形に外れるようになっており、中に「奉納阿夫利神社前社奥社大前」「家内安全大願成就」と記された剣の形をした小さな木札(長さ27.5cm)が納められていました。神奈川県伊勢原市の大山山頂にある大山阿夫利神社は、かつては山麓の大山寺と一体をなす神仏習合の聖地で、不動明王をまつる東日本の雨乞い信仰の中心でした。大山からいただてくる木製の太刀を納め太刀といい、信仰者や地域や災いから守り、願を成就させる力を持つ聖なる護符で、不動明王の分身とも言えるものでした。

上原美術館で開催中の企画展『都の祈り 伊豆の祈り』では、吉佐美地区を守り続けてきた不動明王像と、巨大な納め太刀を、ご覧いただけます。



不動明王を伝えた下田市吉佐美地区の集会所 ※右上に納め太刀がある



納入されていた木札

小林古径は、明治から大正、昭和へと大きな変化をみせた時代、日本画の伝統に新しい感覚を取り入れながら、その発展に尽力した画家のひとりです。

明治16(1883)年、新潟県に生まれた古径は、故郷で歴史画の修業をはじめ、明治32(1899)年、16歳のときに上京し、日本画家・梶田半古の門に入ります。古径が入門した当時、半古は30歳の若さでしたが、故実に基づいた写実的歴史画を得意とし、活躍していました。古画の研究だけでなく、西洋画の画法も果敢に取り入れた半古の塾では、古径をはじめ、前田青邨、奥村土牛など秀でた日本画家が誕生しています。半古は、「写生」と「画品」を重点とし、基礎から丁寧に門下生を指導したといえます。古径は半古塾において、対象を的確に捉える描写力と気品を習得します。

師の半古は、挿絵画家として名の知られた実力派で、半古のもとには、尾崎紅葉や泉鏡花など当時の人気作家や文学者、出版関係者が出入りしていました。そのため、古径は文学と接する機会に早くから恵まれます。常に書籍を持ち歩くほどの文学青年であったという古径は、半古塾で文学への興味・関心をさらに深め、東洋の古典から西洋の新しい文学まで、その知識の幅を広げました。古径にとって良師である梶田半古との出あいは、その後の画家としての道を作ったといえるでしょう。



小林古径《芥川》大正15(1926)年頃

師に加え、古径の画家としての成長を導いたのは新進気悦の青年が集まる「紅児会」との出あいでした。紅児会には先に同門の青邨が入会しており、古径は安田靉彦、今村紫紅の誘いで明治43(1910)年、27歳で紅児会へ

入会します。靉彦、紫紅らをはじめ速水御舟らと知友を得て、彼らと積極的に研究会や展覧会を開催しました。それまで半古塾での研究に没頭していた古径にとって、同世代の彼らとの交流は飛躍する大きな転機となります。古径が師友と切磋琢磨し、独自の画境を探るなか、若き古径の才能を見込んだ豪商・原三溪から物心両面の支援を得ます。制作に没頭できる環境だけでなく、古美術品の大コレクターであった三溪によって、一級品を直接研究できる機会に恵まれたことは古径芸術の発展に大きく影響を与えました。大正3(1914)年、日本美術院が再興されると、古径は31歳で日本美術院の同人になり、日本画壇の中心的存在となります。この明治後半から昭和初期にかけて、古画研究の成果を発揮するかのよう古典文学を題材にした作品を多く手掛けました。なかでも、平安時代に作られた歌物語である『伊勢物語』は、《蛩》(1912年、山種美術館蔵)、《武蔵野》(明治末、伊豆市蔵)、《宇都之山》(1918年、個人蔵)など、画題でしばしば取り上げられました。上原美術館蔵



小林古径《井筒》昭和25(1950)年頃 新収蔵作品

の《芥川》(1926年頃)は、まさにその時期に描かれたもので、『伊勢物語』第6段「芥川」を題材に、余白の薄暗い闇から現れた鬼と、これから起こる不幸を知らずに眠る女性が豊かに表現されています。

このたび、《芥川》に続き、上原美術館では『伊勢物語』第23段「筒井筒」を題材にした《井筒》を新収蔵しました。これは《芥川》が描かれた大正15(1926)年頃から20年以上経て制作されており、古径が継続して『伊勢物語』への関心が高かったことをうかがわせます。「筒井筒」は幼馴染の男女の恋愛を描いた物語です。古径は若い二人が井戸の周りで遊ぶ様子を、簡潔で洗練された画面構成と色彩で仕上げられています。無垢な子どもたちの清らかさからは、円熟期を迎えた古径の研ぎ澄まされた美意識が感じられます。古径の描く人物画に描かれたその表情や仕草には、文学への造詣を深めた古径ならではの深い情感が漂います。

今回ご紹介した小林古径《芥川》と《井筒》は、次回企画展「ものがたりをよむ」で展示いたします。

### ギャラリートーク(作品解説)

開催中の展覧会内容について、担当学芸員が解説を行いました。  
展覧会会期中は毎月第3土曜日、近代館は10時より、仏教館は11時より開催  
しています。開催時間になりましたら、各展示室にお集まりください。  
※要入館券、詳細は当館ホームページ、公式SNS等をご覧ください。

### 授業入館

5月15日 伊豆市立中伊豆中学校

5月25日 下田市立下田中学校美術部

中伊豆中学校は奈良・京都方面の修学旅行の事前学習を行いました。学芸員  
が仏像の見分け方や、修学旅行先で出会う仏像についてお話ししました。下  
田中学校の美術部は開催中の展覧会を学芸員が解説しました。

### 出張授業

6月4日 河津町立河津小学校

河津小学校は3年生を対象に、今年度、国指定重要文化財となった河津町谷  
津・南禅寺仏像群(河津平安の仏像展示館)について、見学前の事前学習とし  
て、田島上席学芸員がお話をしました。

### 対外活動

4月10日 河津町介護家族の会で講演

5月14日 三島市・成真寺、光安寺で講座

6月19日 下田市寿大学講座

田島上席学芸員が各所で講演を行いました。介護家族の会では河津町内の仏  
像についてお話ししました。三島市の寺院では、各寺院に伝わる仏像につい  
て解説しました。

### 国際博物館の日(5月18日)

ICOM(国際博物館会議)では5月18日を国際博物館の日として、多くの方に博  
物館の活動を周知し、親しんでいただくイベントを協賛館で行っています。当  
館も活動に賛同し、当日は無料入館として、多くのお客様に展覧会をお楽しみ  
いただきました。

### 広報活動

伊豆急・蓮台寺駅ネーミングライツ

上原美術館は伊豆急行蓮台寺駅のネーミングライツスポンサーとなりました。  
蓮台寺駅のホーム看板に、「美と出会う。伊豆 上原美術館」が駅名とともに  
掲示されます。4月2日、伊豆急行の土方健司社長、下田市の松木正一郎市長、  
当財団の大平明理事長、当館の大平吉子館長が出席した記念式典を開催し、  
記念のテープカットを行いました。

美術館へお越しの際は、蓮台寺駅から東海バス(松崎・堂ヶ島行き、もしくは宇久  
須行き乗車、相玉バス停下車)が運行しております。



ギャラリートーク(上:近代館/下:仏教館)



授業入館(上・中:中伊豆中学校/下:下田中学校美術部)



蓮台寺駅ネーミングライツ 記念式典のようす

### ラジオ「なむなむ仏像講座」放送3周年目に入

静岡県東部・伊豆の情報を発信する、SBSラジオ(静岡放送)  
の番組『Radio East(ラジオイースト)』(毎週土曜11時から0時  
55分放送)。この番組内で、毎月第4土曜日限定で放送される  
ミニコーナー、『なむなむ仏像講座』が3周年を迎えました。  
本コーナーは、7歳の時から仏像が大好きという筋金入りの  
仏像ファンで、仏像好きアナウンサー・仏像インフルエン  
サーとして活躍中の久保沙里菜さんと、当館の田島上席学  
芸員が、仏像の見方や仏像の魅力、伊豆を中心とする静岡  
県内の仏像、上原美術館の情報について、分かり易く解説、紹  
介するコーナー。10分間の短い時間ながら、楽しく仏像の  
世界に触れることができます。  
放送は以下の地域、周波数にてお届けしています。また、イ  
ンターネット上に特設HPがあり、過去の放送をいつでもお  
聞きいただけます。

放送日時 毎月第4土曜日 11時15分～11時25分

FM 93.9MHz(静岡)、94.7MHz(浜松)、  
90.1MHz(三島・下田)、92.1MHz(御殿場)

AM 1404kHz

特設HP <https://www.at-s.com/sbsradio/namunamu/>



### 美術雑誌『美術の窓』2024年6月号

生活の友社の美術情報誌『美術の窓』2024年6月号(489号、5月20日発行)の「視  
点」コーナーに、田島上席学芸員が「上原美術館による伊豆の仏像調査」を寄稿し  
ました。本稿は当館の仏像調査と展示公開の歴史を、河津町谷津地区、南禅寺仏  
像群の調査と保存に向けての啓蒙活動、2022年の特別展『無冠の仏像——伊豆・  
静岡県東部の無指定文化財』を例に紹介。現在開催中の企画展『都の祈り 伊豆の  
祈り』についても触れました。是非ご覧ください。



### 特別展「伊豆仏に出逢う」図録 発売中!

開館40周年を記念して開催しました特別展『伊豆仏に出逢う——上原美術館の40年』  
(2023年10月7日～2024年1月8日)の記念図録を発行しました。美術館の受付のほか、現金  
書留での販売(送料無料)もしております。

判型:A4判、104頁、全頁カラー 販売価格:1,200円 発売日:2024年3月30日

#### ●購入方法

購入ご希望の方は、カタログ名と冊数、金額、ご住所、氏名、お電話番号をご記入の上、  
現金書留で代金をお送りください。送料無料でお送りいたします。

\*代金受領のご連絡は、図録の発送をもって代えさせていただきます。

送付先:上原美術館 〒413-0715 静岡県下田市宇土金341



## 伊豆だより



大きく実った梅の実

伊豆は新緑に包まれる季節となりました。美術館周辺の濃い緑の山々を見ると気持ちのびやかになるようです。美術館の庭にはさまざまな木や草花が植わっていますが、その中に梅の木があります。第1駐車場前のアトリエにある梅の木は、5月下旬にたくさんの実がなっていました。梅の実は収穫して、梅ジュースや梅干しを作って楽しむこともあり、自然の恵みから季節の移ろいが感じられます。

これから夏を迎え、下田も賑わい始めます。美術館は9月23日まで無休で開館しておりますので、涼しく静かな環境でゆっくりと展覧会をお楽しみください。 (櫻井)

2024年

夏のワークショップのご案内

上原美術館では、夏のワークショップを開催します。

ワークショップに参加して、わくわく楽しい美術体験をしてみましょう！

すべて参加無料！

画材は美術館でご用意します！

### ▼家族で色あそび、透明水彩で

#### 1. 色マスターになろう！

あか・あお・きいろ3色の絵の具を混ぜていろんな色をつくろう！

自分だけのとおきの色が見つかるかもしれません！

日時：7月28日(日) 13時30分～15時00分(1時間30分)

対象：5歳～小学生、保護者と参加

定員：5組(1組4名まで)

講師

小野憲一先生

(現代美術作家、当館デッサン・水彩画教室講師)

応募締め切り

2024年7月21日(日)必着

会場

上原美術館アトリエ

応募方法

郵便はがきまたはメール(info@uehara-museum.or.jp)に

①参加する全員の氏名、②年齢、③住所、④電話番号、⑤参加希望のワークショップを記入し、上原美術館へお申し込みください。来館してのお申し込みも可能です。定員以上のお申し込みがあった場合には、抽選といたします。抽選結果につきましては、メールまたはお電話にて応募締切から3日以内にご連絡申し上げます。

その他

お申し込み後のキャンセルは、美術館までご連絡ください。メールでお申し込みいただいた方には、お申込後、美術館より申込受理メールを送付いたします。申込受理メールが3日以内に届かない場合、お手数ですが美術館までお問い合わせください。

### ▼家族で色あそび、透明水彩で

#### 2. あおであそぼう！

青色の絵具で自分だけのあおの世界を創り出そう！

身近な道具を使って様々な表現方法を体験します。

日時：7月29日(月) 13時30分～15時00分(1時間30分)

対象：5歳～小学生、保護者と参加

定員：5組(1組4名まで)

お申込先

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341

上原美術館「イベント」係/info@uehara-museum.or.jp

www.uehara-museum.or.jp Tel. 0558-28-1228

### ▼中学生、高校生対象

#### 3. 初心者のためのデッサン教室

この夏、鉛筆デッサンを体験してみよう！

3日間で紙コップや幾何形体(石膏)に取り組みます。

この体験がもの見方・感じ方を変えるでしょう。

日時：7月31日(水)、8月1日(木)、2日(金)

13時00分～16時00分

対象：中学生、高校生、3日間通える方

定員：10名

次回休館日は2024年9月24日(火)～10月4日(金)です。(展示替えのため)



上原美術館  
Uehara Museum of Art

開館時間

9:30～16:30

最終入館は16:00まで

休館日

展覧会会期中は無休

展示替え日のみ休館

入館料

大人/1,000円、学生/500円

高校生以下無料 \*団体10名以上は10%割引

表紙写真：河津町・南禅寺の仏像断片。仏教館『都の祈り 伊豆の祈り』で展示中